

## 第8回 神戸市公立大学法人評価委員会 議事要録

1 日 時 平成23年8月1日(月) 14:00~17:00

2 場 所 神戸市役所1号館14階 1141会議室

### 3 出席者

○委員 井野瀬久美恵委員、岩原雅子委員、金児曉嗣委員、庄垣内正弘委員、  
谷沢実佐子委員

○外国語大学 船山理事長、大森理事、寺田経営企画室長、岸本経営企画グループ長ほか

○事務局(行財政局) 玉田行財政局長、藤原行政監察部長、黒田行政経営課長ほか

### 4 議 事

#### 議題1 委員長及び委員長代理の選出について

互選により委員長に庄垣内委員が選出され、委員長代理に井野瀬委員が指名された。

#### 議題2 業務実績に関する評価について

2010年度業務実績について外国語大学から説明を行い、各委員から下記「5 業務実績に関する評価にかかる主な質疑」のとおり質疑がなされた。次に、事前に委員からいただいた意見をもとに、事務局で評価のポイントをまとめた「評価作業シート」について事務局から説明を行なった。その後、大学退席のうえ、評価について審議を行なった。その結果、中期計画項目評価のうち1項目で法人自己評価と異なる評価としたうえで、その他の項目及び中期目標項目評価並びに全体評価は、法人の自己点検・評価及び作業シートのとおりとするとの決定がなされた。

#### 議題3 財務諸表の承認にかかる意見について

#### 議題4 利益処分の承認にかかる意見について

議題2及び議題3について、事務局及び外国語大学から一括して説明を行い、各委員から下記「6 財務諸表及び利益処分の承認にかかる主な質疑」のとおり質疑がなされた。審議の結果、委員会として市長に提出する意見書としては、「意見なし」とするとの決定がなされた。

(その場で意見書案を配付し、了承された。)

#### 議題5 大学認証評価結果の報告について

大学認証評価結果について外国語大学から説明を行なった。

### 5 業務実績に関する評価にかかる主な意見

◇項目別評価のS、A、B、Cという設定の仕方は、普通のA、B、C、Dの4段階評価と異なり、ほとんどがAになりかねない。

「大学独自の研究プロジェクトの実施」は、外大の特色を出していくのに重要な事業である。外部資金を獲得してプロジェクトを進めているがそれと別に大学独自で進めることも重要なので、大学独自の予算化をすればどうか。他大学でも、各学部から、あるいは学部を越えた研究を募集して、それが研究者の意欲や収益につながっている。

地域貢献について、英語の教員を中心によく頑張っている。主に神戸市の教育委員会との連携が盛んにされており非常にいいと思うが、神戸市立なので、神戸市がこの大学をどうしようとしているのかということが、公立大学を預かる法人にとって、非常に切実な問題になる。そのため、神戸市とのパートナーシップ協議会のようなものを発足させて、市長と理事長・学長が代表者となって大学の取り組みについて定期的に協議したらどうか。一方、教員が神戸市にどれだけ地域貢献しているかである。国際コミュニケーションコースもあるし社会科学系の教員もいるのでビジネスとか法律といった側面でも貢献できるし、神戸市にある各種審議会の委員に就任することも、神戸市に対する一つの貢献である。そういう数を増やす努力もした方がよい。

大学経営については、職員のモチベーションを高める工夫をいろいろ考えているようで、給与体系のあり方もこれから検討するということである。多くの大学では自治体からの派遣職員、法人職員、人材派遣、アルバイト、嘱託職員と構成員が多様化しているが、非専任職員の待遇が極端に悪い。非常に仕事ができる非専任職員もいるため、専任化することも、私の経験上、有効だと言える。

科研費の申請については、申請率はここ数年上がっていると思うが、非常勤講師も申請してよい。約 200 人の非常勤講師についても、外大が窓口になって申請すると採択されれば間接経費が入るので、申請を案内することも大事なことはないか。

◇これまでの経験を踏まえた意見であり、非常に有難い。神戸市と大学との意思疎通については、これまで意思疎通を欠かさないようにと言い続けて、随分改善されている。

◇唯一、B評価されている「外部研究資金の獲得」について、Bにする必要があるのかと思う。間接経費が前年度 800 万円だったのが今年 700 万円になっているが、これだけではやや遅れているというほどのものではないと思う。

◇AばかりでSとBが少し出てくるが、これは外大が一生懸命考えた結果であり、BやSを出そうと思ってもあまり出なかったのだと思う。ただ、14 頁のSと 35 頁のBからは、若手は頑張っているが、ベテランが頑張っていないということが表れており、課題である。例えば、35 頁のBは、若手の教員が科研費をとってくるが、間接経費にならないのでBになっている。14 頁は若手が頑張ったからSとなっている。14 頁のヒマラヤ言語学シンポジウムも育志賞をもらったのもチベットの研究である。ここにお金を出してあげるのも一つの考えであり、それで全国、海外から人を集めたらよい。

◇3 頁の「地域貢献」の一番最後に、「ボランティア活動の支援体制の充実に努め」とあり、詳細の記述が 22 頁にあるが、ボランティアの登録の学生数が増えたということと、何をしたかということが少し見えづらいため、評価を悩ませるところがある。5 頁の「柔軟で機動的な大学運営」の「運営体制の改善」でも、「外国学研究所の機能強化のため専任研究員制度を廃止し拡充事業を決定した」とあるが、専任研究員制度を廃止するとどうして全教員の研究活動を支援する機関として位置付けることにつながるのか。また、資料の番号について 1 頁から 5 頁で出てくる○の番号と、6 頁以降の○の番号が一致しておらず、見づらいので統一してほしい。

- ◇50年間以上続いた研究所を再編するのは、非常に難しいことである。それを上手に再編された。これはSSでもよいぐらいである。大英断だと思う。
- ◇29頁の「運営体制の改善」のところがよくわからなかったが、今の話で理解できた。
- ◇企業のように経営的視点を導入するのは難しいことであるが、やるべきことである。そういう視点で、他でもどんどんやってほしい。
- ◇自立的・効率的な大学運営をされているが、法人化して4年目の実績であり、法人化してすぐにしないといけない事柄でもある。少し遅いという感じがする。
- ◇自己財源の確保として寄附を募るというやり方があるが、日本の寄附文化は弱いので難しい。今年、外大は65周年で、5年後は70周年であり、1つの大きな区切りになるので、卒業生に対して寄附金を募るきっかけにはどうか。記念事業を大々的に打ち上げて、同窓生の求心力を大学に引き寄せる。卒業生、教職員を含めたアイデンティティの統一を図ることは有効であるので、ぜひすればよい。
- ◇私の大学でもホームカミングデーというのを毎年5月にやっている。同窓生との関係は、資料のどこかに記述されているのか。
- ⇒大学) 同窓会は、外大では楠ヶ丘会とっている。連携について、法人化以降、何らかの改善をしないといけないと考えているが、なかなかうまくいっていないのが現状で、70周年やホームカミングデーについては、我々も課題と思っている。現在、策定作業に入っている2013年からの第2期中期計画で視野に入ってくる。
- ◇26頁の楠ヶ丘会の記述について、学生の留学プログラムの関係で楠ヶ丘会から100万円の補助金が支給されたとあるが、補助金は同窓会から学生に直接支給されている。同窓会がやっていることなのに、あえて載せているのはなぜか。
- ⇒大学) 大学として、同窓会との連携に取り組んでいるという姿勢を見せている。大学は実務的には推薦という形で楠ヶ丘会に対象となる学生のリストを出している。
- ◇大学の事業としてやっているなら、同窓会から大学に寄附をしていただいて、寄附者として目的を大学に言えば、同窓会の目的も達せられるし、大学としても全面的にアピールができるので、双方に効果があるように思う。
- ⇒大学) 楠ヶ丘会としても意思決定をしたいという強い意向もあり、こんな形になっている。我々も両方を考えたうえでこういう形にしたが、委員のご指摘もあるので、楠ヶ丘会と相談させていただきたい。
- ◇先ほど経営的視点を取り入れてと言ったが、誤解のないように言えば、人をどう活かして、よいアウトプットをどう出していくかというのが経営的視点である。会社であれば、よい仕事を社員にさせて、社員のプライド、会社に対する愛社精神をどう上げていくか、モチベーションをどう上げていくかが、経営者の仕事である。教員に対しても、学生もそうだと思う。それをどう大学に取り入れていけるかを考えながら、目標を定めて達成してもらいたい。

**【評価の審議】 ※大学は退席**

●中期計画項目評価について1項目ずつ確認（以下は主な意見）

○6頁「カリキュラムの見直し」について

- ◇FD活動については、2008年度から大学設置基準が変わった。義務化され、組織的にやれとなった。全学的な観点からやるのと、外大の場合は学科毎にどのような努力をするのかということになる。この2つの組織がうまく有機的にFD活動を展開していくことが必要であるが、どうなっているか。
- ◇授業評価アンケートをしたとか、教員と学生が座談会をしたとか、FD活動そのものは記述されているが、どういう体制でやったかがあまり書かれていない。
- ◇FDを管理する組織としてFD委員会があるのか確認する。

○8頁「専攻語学以外の言語の充実」について

- ◇フランス語やドイツ語は、私達の学生の頃と違い、この頃の学生にはあまりニーズがない。この2つの教員数は非常に多かったが、最近では学生の履修も少ない。この施策はそういう人たちをうまく生かすためにやっているのか、専攻語学以外の言語を習得しなさいという教育的配慮のためなのかかわかりかねる。しかし、評価はAで構わない。
- ◇受講者数を聞いてみないとわからない。教員の数は減っていないと思う。

○9頁「情報化社会への対応」について

- ◇「国際的に通用する人材の育成」という大項目にあり、言語能力、コミュニケーション能力だけでなく、情報ツールをどう使えるかということも入ると思うが、そういう情報教育がされているのかどうか読み取れなかった。例えばパワーポイントを使ったような内容もあるのか。貸出パソコンの増設と書かれているが、台数の問題と教育の中身とは違うので、その数が中身にどうつながっているのか。
- ◇パソコンを学生が勝手に使って、教育内容には含まれていないのか、それとも教育として取り組んでいるのかである。全学共通教育としてという意味を含んでいるが。
- ◇今は高校レベルでもかなりやっているのだから、どこの大学でも考えている。例えば大学でワードを打ち込めることを情報教育だとして、それができたことをメルクマールにされたら、それは国際的に通用することにはならないのではないか。
- ◇大学がワードを使える学生をよしとしているのか、使いたいものは使えばよいとしているのかである。大学の哲学の問題、価値観の問題に関わってくる。外大にそれを押し付けることはできない。
- ◇情報化のツールとして、また、国際会議など学生たちを外に出していくときのメルクマールとして、情報教育はどこも全学共通の1、2年でとらないといけない部分に入っているのだから、概論でここまでやっているからいいと考えているかどうかは聞きたい。

○11頁「就職支援体制の整備」について

- ◇就職率の94.0%は高いのか。平均からすると高いが、どれぐらい高い水準なのか。

◇前年度より下がっているが、今年度は全国的に低い。

◇90.0%を超えたらかなり高い。

○12 頁「学生相談の充実」について

◇学生相談室で 403 件の相談に応じたとあるが、前年度の 387 件から 403 件に増えたのでよくなったという意味なら反対である。

◇相談しやすい環境づくりのために積極的に策を講じているということではないか。

◇企業でも、以前は相談したいことがあってもなかなか言い出せない雰囲気があった。徐々に意識が変わり、そういった機会を利用する人が増え、早めに解決できることが多い。大学でも同じようなことがおきているのではないか。

◇例えば退学率が各大学で問題になっているが、その食い止めに役立ったとか、そういうことが言えるのであれば評価できる。

○13 頁「外部研究資金の導入促進」について

◇科研費の申請は、教員が 80 人ぐらいならこれくらいの件数なのか。

◇新規申請は 16 件だが、前年度からの継続もある。あわせてどれぐらいか質問する。

◇科研費の申請の支援体制がしっかりと整っているのか。この大学の規模でも、そういう係、課は設けるべきである。それがなければ B である。

◇要するに支援体制である。申請して落ちても、5 万円を支給するとか。

◇出さなかった場合にペナルティを課すことも考えられる。

◇質問するが評価は A でよい。

○15 頁「研究者の育成」について

◇5 年目にもなるのに、今頃、大学院のカリキュラムの検討を行う部会を設置したというのは何をしているのかという気はする。もっと早く設置しようと思っていたらできていたと思う。

○18 頁「地域貢献」について

◇もっと大学に人を呼ばないといけない。学会などが開かれる回数が少ない。学会などをどんどん開いて神戸市に人を呼んでくるというのが、一番純粋な地域貢献になる。

○22 頁「語学教員養成機関としての機能充実」について

◇教員採用試験の合格者が 5 名増えただけではないのか。

◇小学校教諭一種免許状を取得したことは学生は苦勞しているが、大学側がそんなに自慢することなのかと感じる。

◇全国のランキングが 98 位から 66 位と上がったと言っていた。

◇この S については、もう一度説明を聞くことにする。

○32 頁「業績評価システムの導入」について

- ◇手当制度のユニット制というのは業績のいい人が手当をもらえるのか。  
⇒事務局) 研究業績を評価して、差をつけているようである。
- ◇論文を全然書かない教員には差をつけるということか。
- ◇どれぐらいの差を設けているかが問題である。質問してみる。
- ◇割と差をつけているのであればSでもよい。

○35 頁「大型科学研究費など外部研究資金の獲得」について

- ◇中期計画に「新規申請数を増やす」と書かれているが、それに対する実績ではなく獲得額だけが書かれている。
- ◇新規申請数は 16 件で、前年度の 15 件から 1 件増えている。
- ◇件数自身は増えているということだった。そのことだけを見るとマイナスでもない。
- ◇新規申請数を増やす点では増えている。しかし、間接経費の確保の点では減っている。
- ◇それは結果であり、100 万円ぐらいであれば、進捗が遅れたというほどではない。
- ◇それではAにする。
- ◇あるいは力点をお金が減ったということではなく、新規の申請数が少なかったということならB評価になる。評価の理由が、100 万円ぐらいの減であればBにはならないのではないか。外大に質問する。

○35 頁「多様な自己財源の確保」について

- ◇「一定の成果が出ている」とあるが、先ほどの楠ヶ丘会との連携は、直接的な大学の成果ではなかった。別途、国庫補助金を受けたとあるがそのことか。
- ◇また、中期計画では駐車場の有料化について検討するとあるが、いつやろうとされているのか。
- ◇ここを何で評価したかであるが、国庫補助金の申請をして、省エネ改修の補助金をもらったということでA評価なのか。それが非常に評価されるべきものなのかである。
- ◇むしろホームページ上で寄附金を募って 1,800 万円確保できたというのは、それほど大きな大学ではなく、創立 65 年ということを考えると評価されるべきことだと思う。

●中期目標項目評価については、全てA評価で決定。(意見はなし)

●全体評価については、作業シートのとおり決定。(意見はなし)

**【大学の入室後、改めて質疑を実施】**(以下は主な質疑)

○35 頁「大型科学研究費など外部研究資金の獲得」について

- ◇評価を変えるかどうか、外大に確認して決めたいものがある。「大型科学研究費など外

部研究資金の獲得」で、計画には「科学研究費補助金の新規申請数を増やし、同補助金の獲得額の増加を図り、間接経費の確保につなげる」とあり、自己点検を見ると間接経費が減っていることが理由となって、Bを付けている。しかし、新規申請者数は1件増えている。たまたま若い人ばかりに当たって、年配の方に当たらなかったという事でBを付けられた。全体の評価基準から見ると、それだけの理由であればBにするのは合理的でないという意見で一致しているが、外大としてはどう考えるか。

⇒大学) 科研費の申請件数を伸ばすため、申請を奨励している。結果的に間接経費が減少したが、申請件数を増やす努力を認めてもらえるのはうれしいことであり、Bにするほどではないということであれば、我々としては異存ない。

◇結果として申請数は増えたけど、獲得額が100万円ぐらい減ったということであればマイナスとは思わない。ただ、申請の奨励をすることを目標に掲げながら、目標としていた申請数に届かなかったというところに力点があるのならば、B評価になる。

⇒大学) 申請を増やす努力をしてきた。申請してもらうために会議を開くなど、最大限の努力をした。ただ、金額的に減ったのでその努力が足らなかったという思いはある。

◇教員をサポートする体制が不十分だったと外大側が評価してBとしたのか、それとも単純にお金が減ったのでBなのか。

⇒大学) 説明の上段がマイナスということでB評価をしたわけであるが、下段ではよいこともあげている。どちらを重視するかで我々としては、現実を認めなければいけないということでBと判断した。

◇この結果が次につながれば非常によいと思うが、この結果を見た先生方がA評価をしたときに誤解して、申請がこれ以上伸びないとなるといけない。これで満足してしまうことになるのか。

◇説明に「特に若手研究Bに6件申請、基盤研究Aの申請を1件確保するなど1件当たりの申請額を増額させた」とあるが、これは申請額なのか、採択額なのか。

⇒大学) 申請である。

◇申請が増えたということを行っているわけで、基盤研究Aは不採択だったということか。若手研究Bの6件の採択はどうだったのか。

⇒大学) 基盤研究Aは不採択である。若手研究Bは6件の申請で4件が採択である。

◇新規申請数が16件で採択数がいくらだったのか。ここでは申請数の中に、こういうものがあつたということを知りたいのか。

⇒大学) 16件のうち8件である。

◇16件の申請で8件が採択されたのであれば、かなりいい率である。

◇前年度4件とはどういう意味か。

⇒大学) 前年度は4件申請した。

◇今年度は6件申請して4件採択された。Aでいいのではないか。

◇ここに書いてある文面で言ったら、まったく抵触していない。

◇Aとする。個人的には申請数が少ない点には不満足であるが。

- ◇申請数は少なすぎると思う。申請数も少ないし、獲得数も少ない。
- ◇申し送り事項として、教員に申請をきちんとしてもらおうということをお願いしたい。  
⇒大学) その点に関しては、中期計画の中で数値目標があり、この評価に関わらず来年度以降も頑張っていく。
- ◇外部資金獲得のための事務的支援体制は整っているのか。  
⇒大学) 研究所の組織の中で、専任のような格好で処理する職員を2人配置している。
- ◇書類のチェック体制はできているということか。  
⇒大学) はい。
- ◇申請した人には研究費を少しあげるとか、そういう形で支援することもできる。

#### ○6 頁「カリキュラムの見直し」について

- ◇2008年度から大学の設置基準が改正されて、FD活動を組織的にやるのが義務付けられた。つまり、大学全体として学長の統括のもとにやるFD活動と、それぞれの学科として学科主任の統括のもとに、それぞれの学科の特徴にあわせたFD活動を行うことが義務づけられている。それが意識されているかどうかを聞きたい。
- ◇学科の特性を活かしたFDをやってほしい。FDというのが、多くの大学で教員又は学生を萎縮させるという結果を生んでいる。外大の伝統を踏まえながら、学科やコースの独立性を生かしたFDを考えてもらったほうがよい。それでも全体は組織的にやらないといけない。FD委員会を設けることは大事である。  
⇒大学) 2008年にFD推進部会を立ち上げた。また、本学の5学科2グループはいずれも少人数で綿密な打ち合わせもしやすいので、実質的にはそこで機能していると考えている。小さな大学の特性を生かした形で比較的、綿密にやっている。そのうえで、全学的な組織としてFD推進部会を新たに設置して取り組みを進めている。
- ◇それでよい。対外的にはFD推進部会があるということを示さないといけないが、そのことによって外大の特性を薄めるということはない方がよい。

#### ○9 頁「情報化社会への対応」について

- ◇情報化の教育が全国的にも重要になっている。10 頁に書かれている情報科学概論の中身であるが、ワードが操れるようになり、パワーポイントが使えるようになるのか。  
⇒大学) 情報科学概論 1・2・3 と 3 種類あるが、レベル毎に上がっていく。1 は、委員が言われたワードやパワーポイントが使えるレベルである。本学の特徴の一つに教職関係があるが、授業でマルチメディアの映像を使ったり、音声を使ったりということがあるので、3 ではそういった映像の処理などを行う。ホームページの関係は2 のレベルである。3 の方が教材作成などを念頭に置いたプログラム作成が中心になる。
- ◇国際的に通用するということには、情報化対応も含まれている。科目名が概論なので、よくわからなかったが、かなり高度な処理までしているようであり結構だ。

○22 頁「語学教員養成機関としての機能充実」について

◇教員採用試験の合格者について、10 名が 15 名、98 位から 66 位になったとのことだったが、どの当りを S 評価としたのか。説明をもう一度聞きたい。

⇒大学) 極めて順調に進捗が見られるので S 評価とした。その背景には、これまで苦労しても合格者の数が少なかったということがあるので、我々としては喜んでいる。

◇もし人数で評価しているのなら、来年度 15 人が 10 人に戻ると S でなくなるので、それは少しおかしい。教育の目標、あるいは計画がきちんと履行されているかどうかの観点から自己評価するのであれば、それで S にしたり、B にするのはどうか。

⇒大学) 自己評価するのに、特に目標を立てたということではなかった。ここに書いてある個別指導や相談支援、スクールサポーターの単位化などいろんなことをやって、それを実施した結果、これだけ伸びたということである。

◇その 5 人のための努力がこうだということを説明しないとイケない。

◇整えたシステムが順調に機能していると書いてもらった方がよい。S には変わらない。

◇小学校教諭の一種免許状を取得することは喜ばしいことではあるが、そんなにすごいことなのか。

⇒大学) 前提として、教員採用試験に合格するのは難しいということがある。具体的に合格者が出たので努力が実ったと考えている。

◇かつては、外大では小学校教諭の免許は取れなかった。それを取れるようなシステムを親和女子大と確立し、順調に機能しているということで評価するのであればよい。

○12 頁「学生相談の充実」について

◇学生相談室のカウンセリングの数であるが、今の大学にとって大事な問題である。403 件の相談に応じたり、欠席の多い学生等への連絡・面談を行うことによって、退学率を減らしたとか、途中で断念する学生を食い止めたとか、そういうものと結び付けないといけない。数字とその数字の持つ意味を少し書く必要がある。

◇自由に相談に来れるような環境を整えたというふうに書いてもらえればよかった。

⇒大学) 実際にそのとおりである。

○32 頁「業績評価システムの導入」について

◇「教員の業績評価ではユニット制に研究業績も追加し、教員の取組全体を評価対象として実施した」とあるが、具体的にどれぐらいの差をつけているのか参考に聞きたい。

⇒大学) 授業の持ちコマ数と学内業務を評価していたものに、研究業績を加えた。研究に関しては 1 ユニットを上限としている。論文の中身を評価するのは難しいので、3 年間でどれだけ論文を出したかという外形評価で評価している。

◇それでどれぐらいの差をつけているのか。

⇒大学) 1 ユニットは現在 19,000 円という単価にしており、例えば 0.5 ユニット下がれば、月額で 9,500 円下がることになる。標準ユニットを決めており、それを超えた分

を支給する仕組みである。

◇1ユニットというのは、1本につきか。

⇒大学) 論文等の種類ごとにユニット数を決めており、1ユニットはその上限である。合計1ユニットだけ評価の対象となる。

◇目に見える差はついているのか。

⇒大学) ユニット数の差が2であれば、月額で38,000円の差がつくということになる。

◇パイは限られているので、ある教員がユニットを高く上げれば、減らされている教員も出てくるのか。手当てするための原資はあるのか。

⇒大学) もともとあった手当てを原資にしており、こういう形で再活用しようと検討を加えた結果、今の制度となった。

◇いいことである。S評価でもよい。

◇それをきちんと書いてもらったらよい。確かに合理的な話である。

◇ユニット制は、法人になってから始めたのか。

⇒大学) はい。

◇今までは、学内委員会とコマ数の部分でやられていたということか。

⇒大学) 法人化以降、コマ数と学内委員会業務の部分でやっていた。

◇実際に上がった人、下がった人の事例があるのならSでよいと思う。

◇これはサバティカルに行く人にも、こういう特典はあるのか。

⇒大学) サバティカルに行くと学内業務や授業が免除されるのであたらない。

◇評価をするのに先ほど3年間の業績と言われたが、2010年度から始め、もう既に対象の人が出てきているというのは、どういう期間で見ているのか。

⇒大学) 過去3年の研究業績を対象にしている。また、1ユニットはほとんどの教員がクリアする制度設計にしているため、個々の教員でそんなにバラつくものではない。

◇ただ、しなければマイナスになるのか。

⇒大学) はい。

◇その効果はある。

◇客観的にどう評価するのか。論文の数さえ出せばいいという人もいるかもしれない。

働きに見合った報酬というものにしなければならぬのもう1年見ることにしたい。

⇒大学) ご指摘のように研究業績をどう評価するかについては、非常に議論が多いので、導入も一番最後になった。

◇研究の中身には外部評価が大事である。外部の人に責任を押し付けるという形でないとできない。そういうことも考えてほしい。今回はAのままとする。

## 6 財務諸表及び利益処分の承認にかかる主な意見

◇資料3の5頁の損益計算書で、役員、教員、職員の人件費の合計を経常収益で割ると76%である。一般的には、人件費が70%を超えると危険な状態と考えるが、うまくいっているのか。人件費が高いと他の事業が十分できないと普通は考えるが、本日、た

くさんの項目についてやっているという印象を持った。その経費はいったいどこから出てくるのか。大学としてどう考えているのか。

⇒大学) 外大の人件費比率が高いのは、語学系単科大学であることが原因である。人件費がネックになって他の経費が出ていないということはない。ちなみに、公立大学の経常費に占める人件費の平均は65%である。外大が82.4%で高い水準にあるのは事実だが、これが経営上のネックになっているとは考えていない。むしろこの人件費をどうコントロールするかが今後の大学がどうなるかに大きく関わってくると考えている。

◇なぜネックにならないのか。

⇒大学) 例えば教員1人当たりの学生数が、公立大学平均の11.6人に対して、外大は25.9人であり、非常に高い割合となっている。

◇1人当たりの学生数が非常に高いということであり、教員の数が少ないということである。東京外国語大学も同じぐらいではないか。

⇒大学) 恐らくそんなに変わらないと思う。

◇まだ理解できない。人件費の比率を見ると教育部分の経費が他の大学に比べて少なくなってしまうはずである。

◇外大は、教育に機材等を使うことがないからではないか。また、文系でも実験系のように調査に行くということもない。

◇そういうことかもしれない。また後日でよいので教えてほしい。

◇資料7の一番下に「目的積立金取崩の見送り」とあるが、昨年度もできるだけ計画を作って取り崩しをしないといけないのではないかと質問したが、結果として2010年度は使われなかった。2011年度、2012年度では、何か計画しているのか。

⇒大学) 特に今の段階で、2011年度、2012年度での大きな取り崩しは考えていない。むしろ将来に渡って財政的な不安要因が多い。特に法人化時の承継教職員の退職手当については運営費交付金で措置されているが、法人化後に採用した教職員については措置されていないので、30年ぐらいかけて15億円ぐらい積み立てる必要がある。それを考えると、なかなか今まで積み立てたものを使う踏ん切りがつかない。第2期中期計画でどれだけのことに取り組むかという議論をこれからしないといけないが、そういう状況があるので、我々としては積立金的なものを作って次期に繰り越したいと考えている。このことは神戸市行財政局とも相談したうえでのことになるとは思っている。

◇それでは、委員会としての財務諸表及び利益処分承認にかかる意見については「意見なし」としたいと思うがどうか。

(異議なし)

○その場で、市長へ提出する意見書案を配付し、内容について了承された。